

承認番号	3815
研究課題名	肝腫瘍に対する肝切除症例における周術期および長期成績に影響を及ぼす因子の検討
研究の意義・目的	肝切除は開腹で行うのが基本ですが、近年の腹腔鏡下肝切除の導入および保険適応拡大により、症例数は増加の一途をたどっています。その低侵襲性より、開腹ではリスクが高い高度肝機能障害や高度肥満症例などにも腹腔鏡下アプローチは有効と考えられていますが、その安全性などについてはさらなる症例の蓄積が必要です。また原発性肝癌の背景として重要な慢性C型肝炎に対する直接作用型抗ウイルス薬（DAA）の導入により、かなり高率のウイルス学的著効が得られるようになりましたが、肝癌肝切除後の再発抑制に関しては今後の課題であります。そして近年増加している非B非C肝癌の臨床病理学的特徴、予後不良因子なども今後解明する必要があります。このように肝疾患に対する肝切除をめぐる環境は大きく変わっており、本研究でその短期および長期成績を解明する予定であります。
研究期間	承認後 ～ 2030年12月31日（西暦）
研究対象者の範囲	1990年1月から2027年12月までに肝疾患（肝癌、良性疾患）に対し肝切除を施行したもしくはこれから施行を予定している患者様
利用又は提供する試料・情報の項目	診療記録、血液検査データ、病理所見、癌再発日、最終生存確認日
利用者の範囲	自施設のみ
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	大阪公立大学医学部附属病院 肝胆膵外科 久保正二
拒否機会の保障	本研究の対象者の方は、問い合わせ先に連絡することによっていつでも本研究への参加を拒否することができます。また、研究への参加を拒否されても、診療に関する不利益等を受けることは一切ありません。
拒否を受け付ける方法	研究責任者 大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 病院教授 久保正二 住所 大阪市阿倍野区旭町1-4-3 肝胆膵外科学医局 電話 06-6645-3841 FAX 06-6646-6057 E-mail m7696493@med.osaka-cu.ac.jp